

3)学生会

・工学部学生会の活動状況

2004年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、従来活動していた学科の学生組織を基にして、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部（学士課程）の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2022年度の工学部学生会は、下表の各学科の学生会の役員によって構成され、工学部全体の会長を土木建築学科3年生の中村海さんが務めた。近年3年生から役員を務める学科が増えてきている。

表1 2022年度各プログラムの学生会構成メンバー

学科名		役名	氏名	年次
土木建築学科	土木工学 地域デザイン	会長	中村 海	3
		副会長	川端 孔耀	3
	建築学	会長	新井 青空	4
		副会長	池田 英恵	4
機械数理工学科	機械工学 機械システム	会長	清水 桜	4
		会長補佐	甲斐 明日奈	4
	数理工学	会長	岡田 伊織	3
		副会長	大保 亮人	3
情報電気工学科	電気工学 電子工学 情報工学	会長	岩佐 燎	3
		副会長	笹本 偉留	3
材料・応用化学科	応用生命化学 応用物質化学	会長	小原 夢衣	4
		副会長	竹園幸一郎	4
	物質材料工学	会長	荒武 弘人	4
		副会長	藤枝 秀斗	4

各学科の学生会では、これまで新入生歓迎会や研修会、スポーツ交流会、各種イベントなど学生の自主活動を促すための学生間交流や環境づくりが行われてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動もままならないままの1年間となり、工学部運動会も実施を見送らざるを得なかった。しかしながら、オンラインをうまく利用して活動できることを模索するため2021年度は学生会用にSlackを立ち上げ、学生間と学生支援委員長との間で連絡を取りやすい環境を構築した。2021-2022年度のSlackの管理は、学生支援委員長が務めたが、2022年度は各学科の学生会員の交流ができるようになったため、LINEグループを立ち上げた結果、Slackの利用はほとんどなくなった。Slackによる学生会の活動支援は一定の成果を修めたと考え、2023年度以降はSlackは使わない予定である。またグループLINEを立ち上げた結果、メールよりも情報伝達がさらに早くなり、以下のことについて学生会が主体的に関わる体制をつくることができた。

- (1) コロナ禍で経済的困窮を強いられている学生への支援企画
- (2) 運動会復活のため活動計画の立案

10月27日に開催された工学部長との懇談会では、各学科の学生会代表が出席し、日頃の学生生活や勉強環境に対しての要望を出し、それに工学部執行部及び教務委員長、学生支援委員長が回答する形で対面形式により実施された。さらに、12月7日に開催された学長との懇談会では、工学部からは学生代表1名が出席し、他学部の代表学生と共に大学レベルで取り組む必要がある施設、設備や大学のシステムについての質問と要望を出し、大学改善に向けて大学と学生の間で活発な議論を展開した。

構成員を見てわかるようにあるプログラムでは幹部が4年次であることから、就活や卒研などでなかなか学生会の活動は活発になりにくい状況があると推察される。これは、コロナ禍においてやもうえず、3年次の役職を4年次まで持ち上がったしまったという状況もあったようである。2022-2023年度の2年間で幹部の学年を2-3年生になるように仕向けていきたい。